

## 1. 評価結果概要表

平成 20年 10月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2070101288
法人名	医療法人博人会
事業所名	桜グループホーム
所在地	長野市篠ノ井二ツ柳字大当1432番地3 (電話) 026-290-1134

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年12月10日

(情報提供票より)( 20年 9月 1日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	18 人	常勤14人	非常勤4人	常勤換算15.4人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1, 2	階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,600 円	

## (4) 利用者の概要 ( 9月 1日 現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名	
要介護1	6名	要介護2	7名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	84.8 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生連篠ノ井総合病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

桜グループホームは、社会福祉法人博仁会 特別養護老人ホーム桜荘からスタートし、医療法人博人会としてH14年に介護老人保健施設の併設として開設したホームである。法人の理念は社会福祉法人の理念を一貫しており「愛と共感」「個人の尊厳」「ヒューマンリズムの精神」である。仏陀の言葉にあるように「衆生病むが故に我病む」という愛と遇の原点であるという。法人内、グループホーム内あらゆるところに理念を掲げ、職員に周知できるように工夫をしている。さらに理念を基にグループホーム内の役割を5つの援助指針としている。ISOを取得し定期的な研修も行い質の向上を目指している法人である。またホームは、住宅の一角に畑や田園に囲まれ静かなたたずまいで、ホーム独自の畑もあり、野菜の収穫などこの地で育った利用者の楽しみの場にもなっており、地域の人々の一員となり運動会などでも登録メンバーともなっているという。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年からの課題であるホーム便りの発行、生活暦収集については、高齢となった利用者の生活暦が取りにくくなっていることもあり、なかなか進んでいない。家族への情報提供書の取り組みもなされ始めた。今後は、早めにホーム独自の方法を2ユニットで協働し確立され、ホーム便りでなくとも家族等への報告がスムーズになされ信頼関係を深め、生活暦の収集により利用者本人らしい生活を送る手段になることが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  ユニットごとの取り組みに相違はあるも職員がそれぞれ第三評価の自己評価に携わることでケアの見直しにもつながった。自らの仕事の振り返り、業務改善の取り組みのきっかけにもなったようである。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  2ヶ月に1回の開催を行なっている。出席者に利用者の家族も多く出席され、地区住民代表、区長、民生委員、包括支援センター職員など多くの地域代表が集まり、グループホーム内の日々のケア、状況報告を行い、家族からの意見の表出の機会にもなっている。会議の中では活発に自由討論の機会も作り地域住民などの意見をケアの向上に役立てている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホーム1階の玄関に意見箱を置き、家族の意見、苦情などを表だしできる体制を作っている。また、利用者の家族がホームへ面会に来たときなどに家族へ利用者の状況報告を行うと共に家族からの意見や不安などの確認が出来る工夫も行っている。運営推進会議においても多くの家族が出席し、意見交換がなされ、運営に反映ができるようにしている。個人情報保護への配慮もなされ面会簿からカード方式の面会記録に変更するなど業務改善にもつながっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  春の清掃・地区の運動会・保育園などへの交流も行っている。運動会においては、狭い地区であるため登録メンバーにもなっており、皆で参加できる楽しみの機会である。毎日の散歩の中、地域住民から話しかけられたり話しかけたり自然に馴染みの関係も出来ている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「愛と共感」「個人の尊厳」「ヒューマニズムの精神」を基に援助方針を掲げ、家庭的な雰囲気の中で自由に尊厳ある暮らしを地域の中でいきいきと生活が出来るようにホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と援助方針を各ユニットやスタッフルームなどに掲げ、いつでも確認できるようにし、日々のケア及びサービスの向上につながるよう取り組みをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	春の清掃、地域の行事への参加、また保育園、学校などの運動会への参加もしており地元の人々との交流は多い。地区運動会では職員と共に参加メンバーの登録にもなっており楽しみの場にもなっている。毎日の散歩時にも地域の住民からの声かけも多く出掛ける楽しみや励みにもなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価について自己評価票の配布を行い、職員からの意見を聞き計画作成担当者がまとめあげた。各自で評価をすることにより個々の気づきができ業務の振り返りにつながった。それにより業務改善への取り組みのきっかけにもなった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催され、区長・民生委員・包括支援センター、家族・ホーム責任者が出席し活発な意見交換が来ている。ケアの報告や入居者の報告を行いホームへの理解を深められている。また行政指導や外部評価の説明や取り組みの報告もなされ、課題については出席者から多方面のアドバイスを頂き改善に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターとの相談や連携が多い。利用者の金銭的トラブルなどへの助言も頂き、解決につながっている事例などもあり随時のかかわりの中で支援を得ている。また、あんしん相談員も定期的に入っており質の向上に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に声かけをし日々の報告をしている。面会が遠のいている家族には電話などで状況報告を行い、身体状況変化時にはその都度連絡をしている。また、月1回の利用料の請求書には利用者の状況を書いた状況報告書を入れることを始めることで家族から喜ばれるようになった。</p>		<p>2ユニットで協働し、家族への連携を密にするために早めの状況報告書が作成されることが望ましい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱が設けられ、家族からの意見が自由に表せる体制を作っている。また、運営推進会議での多くの利用者家族の参加もあり意見交換の場になっており業務改善につながっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人としては意図的に職員の配置転換はしていない。新人職員の配置がされた時には新人研修を行い、他の職員が協力し合い利用者の混乱を招かないような体制をとっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ISO9001の取得を行っており、定期的な研修を実施し、基礎、中級、上級など経験年数に応じ研修計画をたて職員の育成に努めている。また、外部研修に参加した際はスタッフ会議で報告したり報告書を回覧したりし共有を図っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のホームとの交流の声かけは行っているがネットワーク作りなど具体的な交流の取り組みには至っていない。</p>		<p>ユニット責任者のサービス向上への意欲も感じられ、そのためにも自分たちのホームのケアにとどまらず、他のホームと交流をし勉強会、相互訪問などの活動を通じ、更なる質の向上に努められることを期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に事前面接を重ね、出来る限り見学をしていただき雰囲気を体験し、利用者が納得して入居できるように支援している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩であることを尊重し料理や昔の歌を教えてもらう等、利用者から学んだり経験を発揮する場面作りができる様にお互いに支えあう環境作りをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族や友達また入居前のケアマネジャーなどからの情報を収集し、本人の希望や望む生活が送れるように努めている。馴染みのものを持ち込んでいただき、ホームでの生活に溶け込めるように個々の検討も行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族からの情報や、ケアマネジャーからの情報を基にスタッフ会議において介護計画を作成している。その後家族が来所したときに説明を行い確認をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回はスタッフ会議を開き介護計画の見直しをしている。全職員の意見を聞き検討している。また、状況変化に応じ、家族への連絡も取り家族の意見も聞きながら随時、サービス計画の見直しも行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制がありホームの看護師が受診先の医師との連携をとり対応している。ホームでの対応が困難となれば併設老人保健施設・居宅介護支援事業所などへ柔軟な対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>継続して入居前の主治医がかかりつけ医となっているため安心がある。利用者が遠距離であるときはホームの近くに主治医をもち適切な医療が受けられるように支援している。ホームには看護師が囑託ではあるが、必要な医療情報を作成し医療連携が取れるようになっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携加算のために看取り指針は作成してある。入居契約時に家族への説明を行い、共同生活が送れなくなったり身体状況が変わったときなどには早めに家族やかかりつけ医との話し合いを行い方針の共有が図れるようにしている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー保護は新人研修や日頃のケアの中で徹底されている。利用者の排泄時の失禁への配慮などについても、プライドが傷つかないような対応もしている。面会簿の工夫も行いカードに変更した。自室の名前の表示などもプライバシー配慮した工夫をしており、個人情報も使用目的の同意書を頂いている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の決まりごとにとどまらず、その日の天気、要望により出来る限りその人らしい生活が送れるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の老人保健施設に栄養士がいるため献立は作成される。昼のみは献立表に基づき利用者と一緒に毎日食事を作っている。利用者の好みや食事の楽しみのため月1回は昼食レクとしてメニューから買出しまで自分たちで行なっている。週1回は全員が食事作りへの参加ができるように工夫もなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴である。希望すれば毎日の入浴も行うことができる。現在も3人は毎日入浴されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム横に畑があり季節にあった野菜作りをしている。一緒に種を植えたり収穫したりの楽しみがある。ホームは畑、田圃に囲まれ地域から入居されている利用者も多いため季節になると、もろこしが食べたいなどの意見が出たことをきっかけに畑作りをするようになったという。		利用者の生活の中で裁縫をしたり料理をしたり利用者の経験を活かした場面作りも行われているが、個々の生活歴が不十分なため、さらに情報収集の方法を確立し利用者の役割、経験を活かした生活支援がなされることを期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出掛けており、気分転換や楽しみの時間になっている。月に1回の買い物に行くなど気晴らしの支援も行っている。月に1、2回はドライブなどに出かけ外食をする機会も作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム横に大きな水路があり、安全、管理のために玄関はかぎをかけている。しかし、ホーム内は窓を開け放し、景色が眺望できオープンな雰囲気をも出し出し利用者が不安、閉塞感にならないような工夫をしている。地域の見守りも来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回併設の老人保健施設と共に防災訓練を行っている。地域との防災協定も結ばれて協力体制ができており、一緒に避難訓練を行っている。ホーム内にも避難経路が目届くところに表示されている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>併設に老人保健施設があるため栄養士がカロリーや栄養面に配慮した献立となっている。個々の身体状況により食事形態の変更も行われ、水分などへの配慮もされ、個々の食事記録で管理がなされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームは、一般の家庭的な作りである。日ざしの強いところはブラインドで光の調整を行い利用者が心地よく過ごせる工夫が感じられる。そして毎月季節感をもたらす絵などを飾り共有空間の工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室入口には利用者の気に入った暖簾が掛けてあり自分の部屋である雰囲気作りもされている。また、自室には写真や馴染みのものを持ち込み、本人が落ち着いて過ごせる工夫をしている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。